

0 目次

はじめに

＜基本構想＞

I．現状と課題

1．本市のスポーツの現状と課題	……………01
2．既存施設の現状と課題	……………01
（1）既存施設の現状	
（2）既存施設の利用状況	
（3）既存施設の課題	

II．総合スポーツセンターの基本的な考え方

1．計画上の位置づけ	……………04
2．総合スポーツセンターの必要性	……………04
3．基本コンセプト	……………05
（1）宗像のスポーツの中核拠点となるスポーツセンター	
（2）宗像の笑顔や元気があふれるスポーツセンター	
（3）宗像の環境に調和したスポーツセンター	
4．施設整備方針	……………05
（1）「宗像のスポーツの中核拠点となるスポーツセンター」の実現に向けて	
（2）「宗像の笑顔や元気があふれるスポーツセンター」の実現に向けて	
（3）「宗像の環境に調和したスポーツセンター」の実現に向けて	

0 はじめに

少子高齢化、人口構成の変化による人口の空洞化、そしてそれらに伴う人間関係の希薄化は全国的な現象であり、本市においても例外ではありません。このような社会環境の変化は、人々の運動やスポーツをめぐる市民生活にも大きな変化を与えています。

こうしたことから、平成２３年６月に制定されたスポーツ基本法では、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利とされ、スポーツは、青少年の健全育成や地域社会の再生、心身の健康の保持増進、社会・経済の活力の創造、国の国際的地位の向上等、国民生活において多面にわたる役割を担うとされています。また、平成２４年３月には、スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会の創出を目指す「スポーツ基本計画」が、福岡県においては平成２６年に「福岡県スポーツ推進計画」が策定されました。

また、このような動向に加え、平成３２年には半世紀振りの日本開催となる「東京オリンピック・パラリンピック」開催決定や、スポーツ庁の設置に向けた検討が開始されたことから、人々のスポーツへの興味・関心の更なる高まりや、一元化したスポーツ施策の推進が期待されます。

このような背景の中、本市においてもこれからのスポーツを取り巻く環境の変化に対応すべく「宗像市スポーツ推進計画」を策定し、同計画に則り平成２７年から更なるスポーツの推進を図ることとしています。幸い本市は、３つの大学や民間スポーツ施設、さらには本市に本拠地を置くトップスポーツチーム等豊富なスポーツ資産や、玄界灘、大島、地島、釣川、里山等の豊かな自然や、沖ノ島や宗像大社に代表される歴史的・文化的遺産を有しており、スポーツの多面活用によるまちづくりが実現できる大きな可能性を持っています。

一方、本市のスポーツ施設の整備状況は、主にスポーツ実施者中心の施設整備が行われています。特に３つの市営体育館（市民体育館、玄海Ｂ＆Ｇ海洋センター、勤労者体育センター）は、いずれも昭和５０年代半ばに建設され、すでに築３０年以上が経過しており、現在の市民ニーズに十分にこたえることができない施設となっています。これから、市民の健康づくりやスポーツ観光による地域経済やコミュニティ活動の活性化、さらには障害者スポーツの推進等、更なるスポーツの推進に向けた施策の展開に対応できる施設づくりが求められています。

以上を踏まえて、本市の新たなスポーツ推進の中核拠点となる「宗像市総合スポーツセンター」の建設に向けた基本構想・基本計画を取りまとめました。

I 現状と課題

1. 本市のスポーツの現状と課題

【施策による取り組みの現状と課題】

本市では、平成17年に宗像市スポーツ振興計画(平成17年度から平成26年度までの10年間)を策定し、市民一人ひとりが生涯を通じて、継続的・主体的にスポーツに関わることができるよう、「地域スポーツ・健康づくり活動の推進」、「総合型地域スポーツクラブの設立や活動の支援」、「児童生徒の健康・体力向上」、「企業スポーツ連携活用事業の展開」、「スポーツ資産の有効活用」等の取り組みを行ってきました。

本市は福岡教育大学をはじめとする3つの大学や民間スポーツ資産を有していますが、その活用が十分とはいえません。また、子どもの体力については小・中学生ともに全国的な傾向と同様に低下するといった課題を有しています。

【市民のスポーツの現状と課題】

子どものスポーツについては、生活の利便性が高まったこと、少子化の進展、地域の遊び場の減少、興味や関心の多様化等が、子どもの運動・スポーツ離れにつながっています。さらに、日頃から身体を動かす機会も減少したことが、子どもの体力の低下を引き起こしています。こうした子ども達の現状を踏まえると、未来を担う子ども達が、生涯を通じて心身ともに健康的な生活を送るために、できる限り早い段階で、運動・スポーツをめぐる楽しさを理解すると同時に、様々な運動やスポーツを通じて体力づくりができる環境の整備が求められています。

一方、成人のスポーツについては、市体育協会加盟のスポーツ団体(20競技、成人会員数 約3,500人)を中心に大会の開催や教室の開設等、活発に活動が行われています。他にも、社会体育活動や民間スポーツ施設との連携による事業の実施等、市民、行政、学校、各種団体等が、様々な取り組みを行っています。個人では、宗像ユリックスやグローバルアリーナをはじめとするスポーツ施設において、テニスや水泳、トレーニングジムでの運動等を行っています。スポーツ施設以外では、ウォーキングやジョギング等の運動が盛んになっています。また、高齢者を中心として、誰もが気軽にできることを目的としたグラウンドゴルフ等のニュースポーツも浸透しつつあります。宗像市民の間では、年齢が上がるにつれて、運動・スポーツを実践している比率が高まっており、市民一人ひとりがそれぞれのライフステージに応じて、自分自身にふさわしいスタイルで健康づくりやスポーツ・レクリエーション活動を行える仕組みづくりが求められています。

【スポーツ観光の現状と課題】

市主催等の大会では、むなかたキッズセブンラグビー大会(3・4年生対象)、ビーチラグビー大会(子どもから社会人まで対象)、マリンフェスタ(小・中学生対象)、OPヨット大会(小学生対象)等が開催され、県外も含め市内外から多くの人に参加しています。毎年10月には、実業団女子駅伝西日本大会が開催され、市民にスポーツの観戦機会を提供しています。

本市の民間スポーツ施設のグローバルアリーナでは、国際大会をはじめとする様々なスポーツ大会の誘致や開催、スポーツ合宿の誘致が行われていますが、特定の民間スポーツ施設の取り組みの範囲を出ていません。本市はスポーツ施設や多数のホテル、旅館等の宿泊施設を有していることから、全市的にスポーツ観光を推進する体制を整備し、宿泊客を増加させる取り組みを行うことで地域経済活

動の活性化を図るとともに、市の新たなイメージアップにつなげる必要があります。

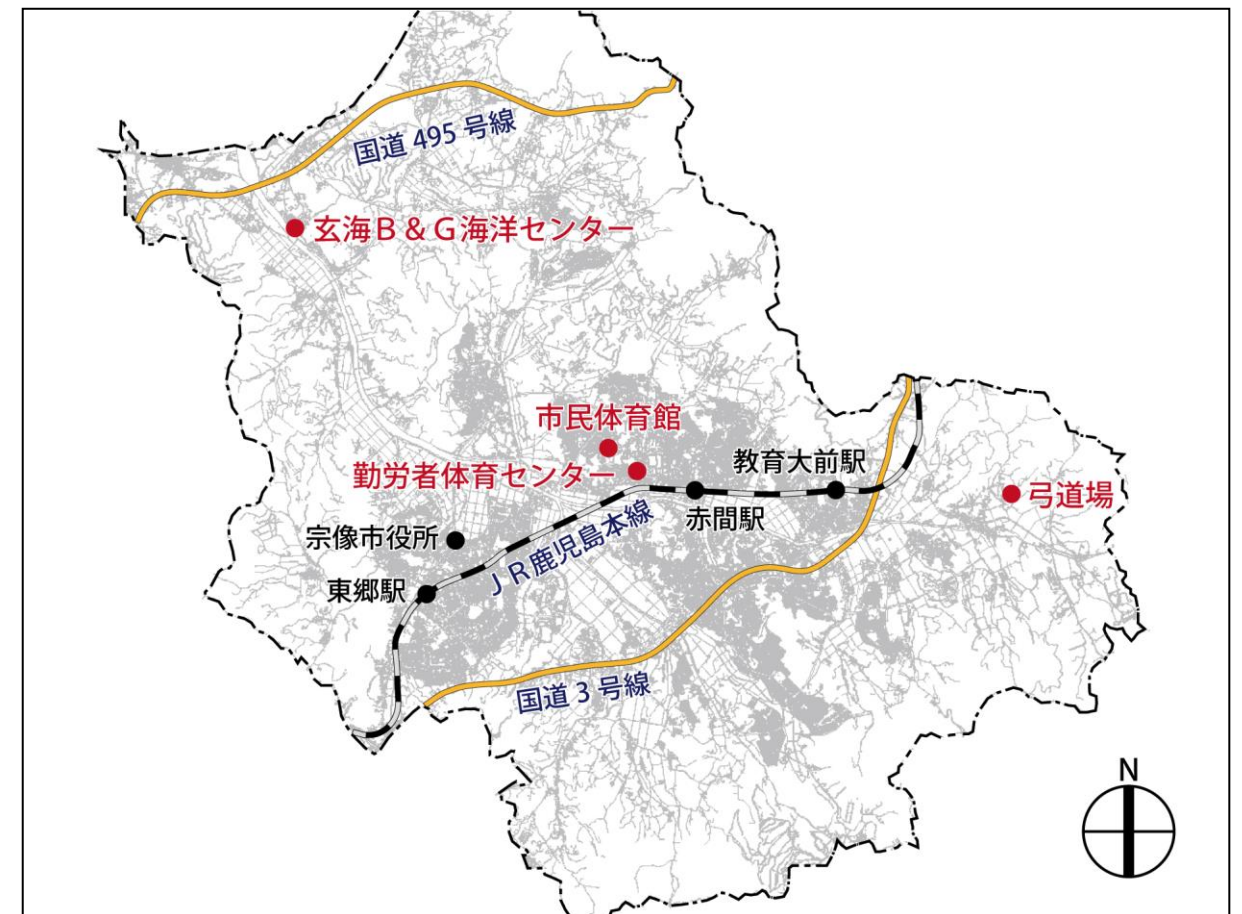
2. 既存施設の現状と課題

(1) 既存施設の現状

本市には、市営体育館が3館(市民体育館、玄海B&G海洋センター、勤労者体育センター)があります。3つの市営体育館は、いずれも昭和50年代半ばに建築され、既に築30年以上が経過しています。年間約18万人(市民体育館/約14万人、勤労者体育センター/約2万人、玄海B&G海洋センター/約2万人)が体育、スポーツなどの振興や健康づくり、各種スポーツ大会等に利用しています。しかしながら、市民体育館は、メインアリーナが2階にあるため、十分なバリアフリー対応施設とはなっていません。

本市の市営弓道場は、吉武地区の神社境内地に昭和57年に建築され、既に築30年以上が経過しています。年間約8千人が利用していますが、夜間利用の十分な防犯対策が難しい状況にあります。

また、本市の市体育協会加盟の武道関係協会は、剣道、柔道、空手道があり、日常的な稽古や講習会、大会等の開催などの活動が市内の学校施設等を中心に行われています。



既存施設の位置図

（２）既存施設の利用状況

3つの市営体育館は、年間約 18 万人が利用しており、現状では利用者が自由に施設を確保することが難しい状況になっています。

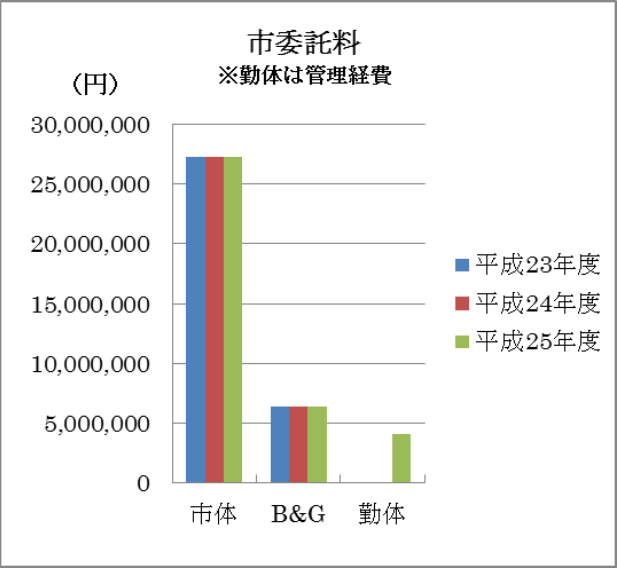
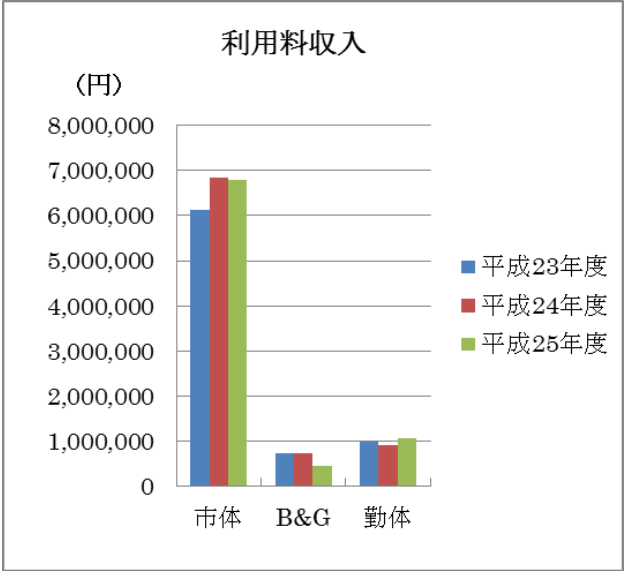
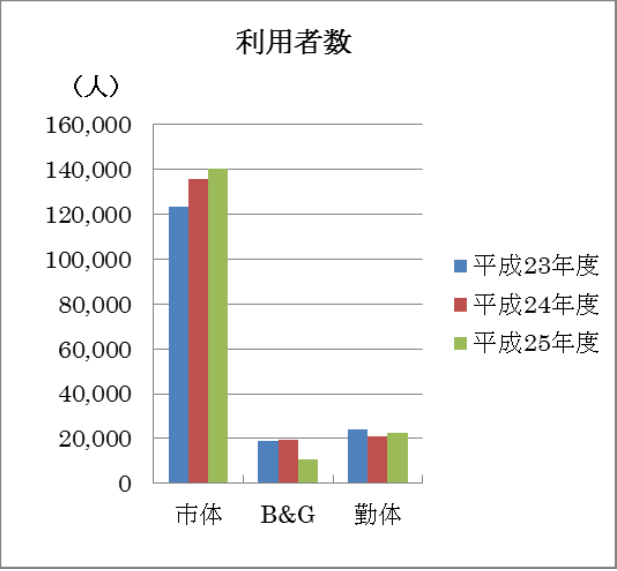
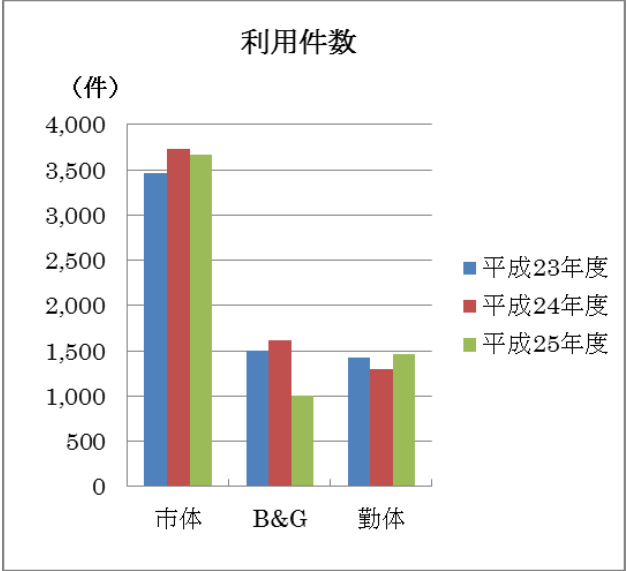
■既存市営3体育館 年間利用人数 (単位：人)

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
市民体育館	123, 413	135, 719	140, 420
玄海 B & G 海洋センター	18, 664	19, 533	10, 693
勤労者体育センター	23, 817	20, 740	22, 368
合計	165, 894	175, 992	173, 481

※玄海 B & G 海洋センターは、平成 25 年 12 月から平成 26 年 3 月まで耐震化を含めた改修工事を行ったため、利用者が例年より少ない 10, 693 人となった。

■既存市営3体育館 年間利用実績

		平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
市民体育館	利用件数	3,468	3,736	3,665
	利用者数	123,413	135,719	140,420
	使用料収入	6,134,660	6,852,260	6,800,820
	開館日数	306	306	307
	延べコマ数	918	918	921
	市委託料	27,342,000	27,342,000	27,342,000
玄海 B & G 海洋センター	利用件数	1,500	1,618	1,007
	利用者数	18,664	19,533	10,693
	使用料収入	726,000	718,960	448,510
	開館日数	306	306	307
	延べコマ数	918	918	921
	市委託料	6,397,000	6,397,000	6,397,000
勤労者体育センター	利用件数	1,423	1,301	1,457
	利用者数	23,817	20,740	22,368
	使用料収入	986,860	900,240	1,061,270
	開館日数	306	306	307
	延べコマ数	918	918	921
	管理経費	—	—	4,063,526



※勤労者体育センター（平成 25 年度）は、直営のため管理経費に係る市職員の人件費は含まない。平成 26 年度からは、市体育協会による指定管理となる。

※平成 24 年度までは、河東地区コミュニティ運営協議会が勤労者体育センター、陶芸施設、市民活動補助施設の 3 施設を委託料 5 百万円で管理した。（これ以外に清掃、消防点検、光熱水費等が掛かっていた。）

■弓道場 年間利用実績

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
利用者数	8, 235	8, 632	8, 364
使用料収入	1, 186, 320	1, 249, 720	1, 199, 600
開館日数	359	360	359
市委託料	549, 000	549, 000	549, 000

（３）既存施設の課題

既存施設の主な問題点として次の点が挙げられます。

【既存市営体育館について】

- ① ３０年以上前の市民ニーズを想定した施設であり、現在の多様化した市民ニーズに十分応えることができない
 - ・冷暖房施設を有していない
 - ・観客席を有していない
 - ・照明や採光が競技に適していない
 - ・用具倉庫等、収納スペースが不足している
- ② 人口６万人規模に対応した施設規模であり、現在の利用者（年間１８万人：市民体育館／１４万人、玄海Ｂ＆Ｇ海洋センター／２万人、勤労者体育館／２万人）に対応できていない
 - ・時間帯によっては、利用者が自由に施設確保をすることが難しい
 - ・くつろいだり、交流したりする共有スペースが手狭である
 - ・競技フロアが狭く、時に危険を感じる
- ③ スポーツを通じて市民が幸福で豊かな生活を送るための取り組みや、今後多様化する市民ニーズに対応できない
 - ・高齢者の健康づくりや、障害者スポーツ、さらには子育て世代に対応した支援機能や、バリアフリーやユニバーサルデザインの対応が不十分である
 - ・スポーツ観光にもつながる大会開催に必要なフロア面積や、指導者養成やスポーツ団体の大会運営等の打合せ会に対応できる会議室が不足している
 - ・フットサル（壁強度）や各種ダンス（音響）等、新たな競技に対応していない

【武道関係施設について】

- ① 剣道、柔道、空手道
 - ・市営武道場がない
- ② 弓道
 - ・神社境内地にあり、夜間の防犯対策が十分できない
 - ・競技スペースが手狭で、観客席がない

Ⅱ 総合スポーツセンターの基本的な考え方

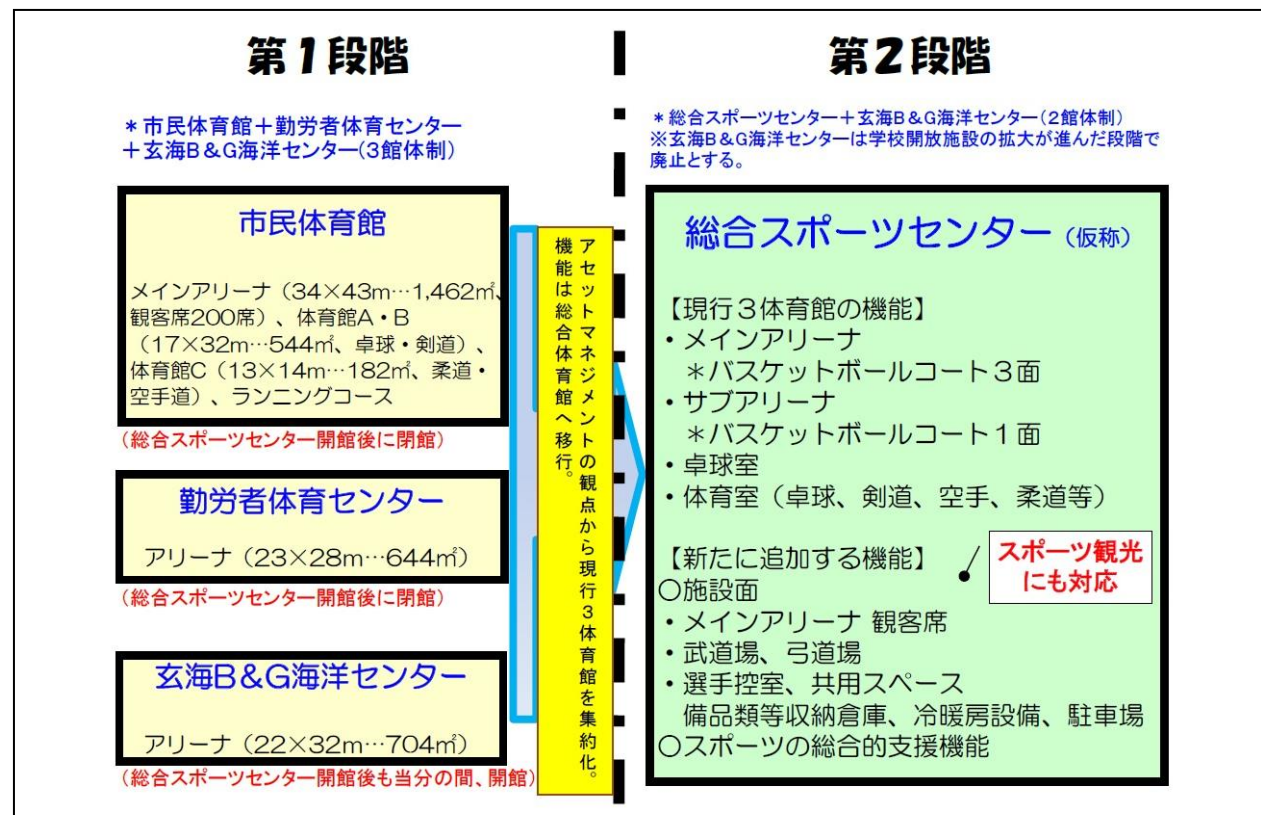
1. 計画上の位置づけ

【第2次宗像市総合計画】

第2次宗像市総合計画において、「スポーツの多面活用による賑わいのあるまちづくりを行う。」としており、施策区分「地域スポーツ環境の整備」の中で総合スポーツセンターを整備することとしています。

【宗像市スポーツ推進計画】

宗像市スポーツ推進計画の基本施策の8つの柱のひとつとして、「現行3体育館を廃止し、市民の運動・スポーツを支援する、センター機能を備えた『総合スポーツセンター（仮称）』を整備する。」としています。



拠点となる施設の再構築と整備イメージ図

【宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画】

宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画において、「市域施設である既存スポーツ施設を集約化し、スポーツの多面活用に対応可能な施設を整備する。」ことに合わせて、スポーツ振興によるまちづくりを推進するために必要な「スポーツ振興施策としての公共施設の整備及び更新は政策的配慮を行う。」としています。

2. 総合スポーツセンターの必要性

既存3体育館は、単一目的・単一世代を対象とした施設として建設された施設であり、スポーツ実施者中心の施設では、多様化する市民ニーズへの対応は困難となっています。そのため、既存施設の【するスポーツ】の更なる推進に加え、【観るスポーツ】、【支えるスポーツ】及び、【スポーツを通じた交流】の推進を図るための施設づくりが必要となっています。

また、施設を有効に活用するための仕組みづくりを合わせて行うことによって、子どもの体力向上、市民の健康づくり、スポーツを通じた観光や交流による地域経済への貢献、コミュニティの活性化等、本市のまちづくりのセンター拠点としての役割を担っていくこととなります。

このことを踏まえ、本市におけるスポーツ及びスポーツ施設の現状と課題、計画上の位置づけを総合的に勘案し、以下の主な4つの課題から、**新たな総合スポーツセンターを建設する必要性がある**と判断しました。

（1）多様化する市民ニーズにこたえるスポーツ活動の場の充実が必要

- ・既存施設の改修では対応できない、観客席や冷暖房設備等の設置が必要
 - ・同じ競技であっても既存施設の建設時と比べて、現在では広いフロア面積を必要とし、社会的劣化※1に対する対応が必要
 - ・多様な競技に対応できる備品整備に係る、大容量の収納スペースが必要
- ※1：耐用年数に満たない場合でも、施設整備の基準やスポーツ施設に要求される機能が

時代とともに進歩することで、その施設が陳腐化し、時代にそぐわなくなること

（2）様々なスポーツ大会の開催基準や、新たなスポーツ活動に必要な規模・機能が必要

- ・日頃の練習成果の発表であるスポーツ大会が「晴れの舞台」となる施設づくりが必要
- ・利用者の要望に応じ、大規模空間を細分化したり、多目的な利用ができる諸室を設ける等により、効率的な対応ができる施設づくりが必要
- ・大会や研修会開催に対応できる会議室等諸室や、市民が交流したり、くつろぐための十分なスペースが必要
- ・新たなスポーツ種目に一定対応した施設づくりが必要

（3）運動・スポーツを総合的に推進するためのセンター機能を有した中核拠点整備が必要

- ・運動・スポーツのつながりを求め、多くの市民が集う施設となるよう、スポーツ指導者の派遣や運動・スポーツプログラムの開発・実施、スポーツ情報の集約・発信等を行う、市民の運動・スポーツを総合的に支援するセンター機能を有した施設づくりが必要
 - ・年齢や障害の有無に関わらず全ての市民が利用しやすいよう、バリアフリーやユニバーサルデザインへの抜本的な対応が必要
 - ・現行の市民ニーズだけでなくこれからの市民ニーズにも対応できるフレキシブル※2な施設づくりが必要
- ※2：融通のきく、柔軟な、順応性のある

（4）既存の武道関係施設に不足している機能の充実が必要

- ・中学校、高等学校で武道が必修となり、今後の利用者増が見込まれることから、武道が安全にできる施設づくりが必要
- ・大会開催時等に必要選手控室や観覧スペース等諸室の整備が必要

3. 基本コンセプト

宗像市スポーツ推進計画において、計画の基本理念である「スポーツで笑顔・元気あふれるまちづくり」を実現するために、4つのチャレンジ（基本方針）「エンジョイ」「健康」「交流」「スマイルキッズ」を推進することが謳われています。このチャレンジを推進するために策定された基本施策のひとつとして、総合スポーツセンター整備が謳われています。

このことから、宗像市スポーツ推進計画の「4つのチャレンジの推進による基本理念の実現」とともに、「宗像の公共施設」であることを踏まえ、総合スポーツセンターの基本コンセプトを掲げます。

（１）宗像のスポーツの中核拠点となるスポーツセンター

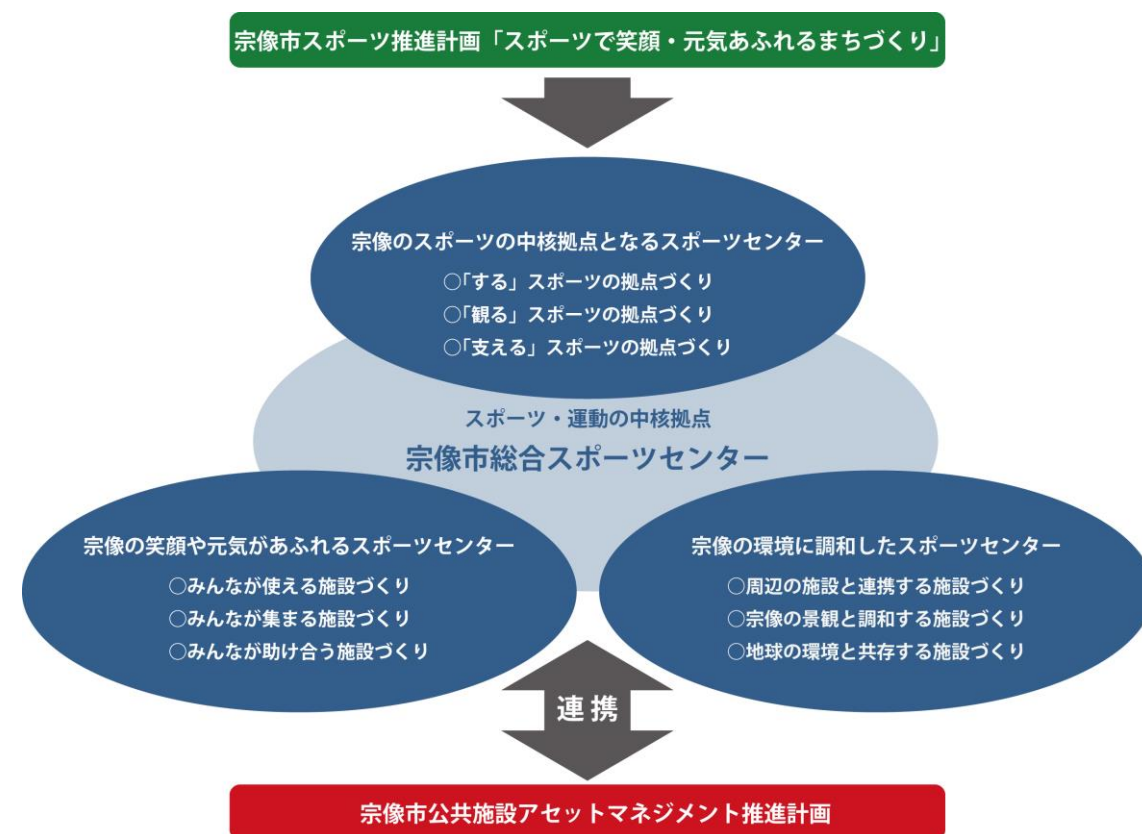
- 「する」スポーツの拠点づくり
- 「観る」スポーツの拠点づくり
- 「支える」スポーツの拠点づくり

（２）宗像の笑顔や元気があふれるスポーツセンター

- みんなが使える施設づくり
- みんなが集まる施設づくり
- みんなが助け合う施設づくり

（３）宗像の環境に調和したスポーツセンター

- 周辺の施設と連携する施設づくり
- 宗像の景観と調和する施設づくり
- 地球の環境と共存する施設づくり



基本コンセプトのイメージ図

4. 施設整備方針

総合スポーツセンターの基本コンセプトの実現に向けて、（１）～（３）のそれぞれの基本コンセプトごとに具体的な施設整備方針を掲げます。

（１）「宗像のスポーツの中核拠点となるスポーツセンター」の実現に向けて

○「する」スポーツの拠点づくり

- ・スポーツ練習、健康の保持・増進、体力の向上、生涯学習などの場として市民が日常的に利用できる施設を目指します。

○「観る」スポーツの拠点づくり

- ・スポーツ練習の成果を発表する場である市民レベルの大会の開催やスポーツ観光にもつながる、全国・九州レベルのスポーツ大会が行える機能を備え、子どもから高齢者までスポーツを「観る」ことを楽しむことができる施設を目指します。

○「支える」スポーツの拠点づくり

- ・様々なスポーツ関連情報の収集・発信やスポーツプログラムの開発・実施、スポーツ指導者の研修、総合型スポーツクラブの設置など、市全体のスポーツ環境の保全・向上に寄与することができる施設を目指します。

（２）「宗像の笑顔や元気があふれるスポーツセンター」の実現に向けて

○みんなが使える施設づくり

- ・子どもから高齢者まで誰もが利用しやすいようにバリアフリー、ユニバーサルデザインを徹底し、利用者がそれぞれのライフステージに合わせて生涯を通して利用できる施設を目指します。

○みんなが集まる施設づくり

- ・施設の利用がスポーツ・運動に限定されることなく、個人や団体などの様々な利用者が、施設の利用を通して交流することができる施設づくりを目指します。

○みんなが助け合う施設づくり

- ・災害時の緊急避難場所として、耐震安全性と避難者支援機能を備えた施設を目指します。

（３）「宗像の環境に調和したスポーツセンター」の実現に向けて

○周辺の施設と連携する施設づくり

- ・スポーツセンター建設予定の周辺施設である、宗像ユリックス本館、アクアドーム、芝生広場と連携し、相乗効果を生むことができる施設を目指します。

○宗像の景観と調和する施設づくり

- ・四塚連山の稜線や宗像大社などの歴史的なまちなみといった周辺景観と調和した、宗像らしい施設づくりを目指します

○地球の環境と共存する施設づくり

- ・自然エネルギーの活用や省エネルギー技術の導入などにより、ライフサイクル CO2 の削減に配慮した環境にやさしい施設づくりを目指します。